

朝鮮通信使饗応食（第12報）旅中の食材料等の提供について
長崎女子短大 大坪 藤代

目的：通信使への接待には幕府及び沿道諸藩の饗応食、下行（食材料等の提供）、音物（進物）などがあつた。道中の饗応食については、五所路裏となつた正徳信使を除くと、参向時は三使・上々官（朝・晩 七五三、昼 五五三）、上官（朝・晩 五五三、昼 二汁五菜）、中・下官（二汁八菜～一汁四菜）であるが、下向時は、中官以下には膳部が用意されたが、三使～上官では下行であつた。また、海路でも参・下向ともほぼ下行であつた。そこで下行の概要について調査した。

方法：宗家記録類（壬戌信使記録五拾一、正徳元年信使参向海陸御賄下行帳、延享五年信使記録五拾、宝暦信使下行方毎日記、宝暦十四年下行方目録、文化信使記録五日次物定式等）、広島藩記録類（延享度朝鮮人来聘記六、宝暦度朝鮮人来聘等）、通航一覽等により分析した。

結果：①下行物は幕府よりの基準が示され各地共に米、酒、調味料、魚鳥、野菜、菓子・果物、茶等の食料品及びたばこ、燃料等でその量は三使（三汁九・十菜）、上々官（三汁八・九菜）、上官（二汁七・八菜）、中官（一汁六・七菜）、下官（一汁五・六菜）の相当量であつた。②下行物の種類と量については、米（1人前1日分三使4升、下官15升）、獣鳥肉（三使猪又は鹿1肢、下官なし）とかなりの階級差がみられた。③地域差は米、酒、調味料等は同じであるが魚鳥、卵、野菜に若干の差がみられた。④参・下向差については同年代の下行物記録がみつからず判明しなかつた。⑤時代差については、酒は天和度に多く、卵・菓子等は正徳に多い等食品の種類で異なつた。